

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 2 月 2 4 日
Date of Application:

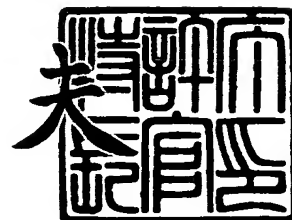
出 願 番 号 実 願 2 0 0 2 - 0 0 8 1 5 3
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 2 - 0 0 8 1 5 3 U]

出 願 人 株 式 会 社 相 模 化 学 金 属
Applicant(s):

2 0 0 3 年 1 1 月 1 8 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康



【書類名】 実用新案登録願

【整理番号】 U0924202

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61N 02/08

【考案者】

【住所又は居所】 神奈川県相模原市橋本台三丁目 1 2 番 1 8 号
株式会社相模化学金属 内

【氏名】 福田 重男

【実用新案登録出願人】

【識別番号】 390021485

【住所又は居所】 神奈川県相模原市橋本台三丁目 1 2 番 1 8 号

【氏名又は名称】 株式会社相模化学金属

【代理人】

【識別番号】 100076358

【住所又は居所】 神奈川県厚木市旭町一丁目 2 7 番 6 号
本厚木マイビル 4 0 3 号

【弁理士】

【氏名又は名称】 池田 宏

【納付年分】 第 1 年分から第 3 年分

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 006666

【納付金額】 49,400円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【考案の名称】 永久磁石リング

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング 1 に於いて、上記複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを、横断面が円形の円柱形状に形成するとともに、上記円柱形状に形成した永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成して成ることを特徴とする永久磁石リング。

【請求項 2】 複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング 1 に於いて、上記複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを、横断面が楕円形の楕円柱形状に形成するとともに、上記楕円柱形状に形成した永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成して成ることを特徴とする永久磁石リング。

【請求項 3】 複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング 1 に於いて、上記複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを球状に形成するとともに、上記球状に形成した永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成して成ることを特徴とする永久磁石リング。

【請求項 4】 複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング 1 に於いて、上記複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを、横断面が五角形以上の多角形の円柱形状に形成するとともに、上記五角形以上の多角形の柱形状に形成した永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成して成ることを特徴とする永久磁石リング。

【請求項 5】 上記永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の表面にメッキを施したことを特徴とする請求項 1～請求項 4 の何れか 1 項に記載の永久磁石リング。

【請求項 6】 上記メッキは下地メッキの銅又はニッケルメッキと、表面のメッキの金又は白金系ロジウムメッキであることを特徴とする請求項 5 記載の永

久磁石リング。

【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は永久磁石リングに係わり、更に詳しくは身体の手首、足首、首回り、腕回り、足回り等に装着して、永久磁石リングから出力される磁気的作用により血行を促進させる等する永久磁石リングの改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

周知の通り、永久磁石を使用してリングを構成し、それを身体の手首、足首、首回り等に装着し、上記永久磁石リングから出力される磁気の磁気作用により血行を促進する等の効果を期待しているネックレス又はブレスレット等の身飾品としての永久磁石リングが多々実用化され、考案としても提案されている。

【0003】

その内の1つの従来例は、実用新案登録番号第3033643号である。即ち、湾曲し、その両端が対向している弾性のあるリングと、そのリングに固定された4個の磁石よりなり、上記リングを人体の首回りに取り付けたとき、上記のうち2個の磁石を頸動脈に押接するように固定配置し、残りの2個の磁石を首筋の中央部から両側に向かって所定距離だけ離れた位置に押接するように固定配置し、上記リングの両端部を連結手段により連結し、その連結手段により上記リングの大きさを調節可能にした磁気利用健康具である。

【0004】

もう1つの従来例は、実用新案登録番号第3021225号である。即ち、人体の首、手首等に装着する装身具基体を多数の連結部材で連鎖状に連結させたネックレス又はブレスレット等の装身具において、シリコン等の液化樹脂と麦飯石、蛇紋岩、角閃石、褐礫石、沸石、蛍石、フェルソング石等の多種類の鉱石を粉碎した微粉末鉱石とスギゴケ、ゼニゴケ等のコケ類植物を乾燥させ粉末状とした微粉末植物とを混和させて被覆用主剤とし、該被覆用主剤で永久磁石を被抱させた後に加熱処理して多数のチップ状の基剤を形成し、該基剤を前記装身具基体

の人体接触面に形成された凹陷部へ埋設させたことを特徴とする健康装身具である。

【0005】

上記従来1及び従来例2の技術の場合、連結部材に対して永久磁石を固定して構成されている。即ち、上記実用新案登録第3033643号の場合には、リングに対して容器を固定し、その容器中に永久磁石を配設している。もう1つの実用新案登録第3021225号の場合は、基体に永久磁石を埋設し、その基体をリング状に連結している。

【0006】

【考案が解決しようとする課題】

上記従来技術の場合、永久磁石をリング上に又はリング状の配列位置に固定する為に容器や基体を設け、それらに永久磁石を埋込等して磁気利用健康具、或いは健康装身具等を構成するので製造工程が多くかかり、製造コストが高くなる問題点があった。又容器や基体を必要とし、それらが一定の大きさを有するので、リング一周あたりに取り付けることのできる永久磁石の数が少なくなり易い。従って、従来の磁気利用健康具や健康装身具の場合においては、永久磁石による磁力線の身体各部への作用も少なくなり勝となる問題があった。

【0007】

【目的】

従って、本考案の目的とするところは、任意の大きさの永久磁石リングを使用者自身により簡単に構成可能な永久磁石リングを提供すると共に、リング一周あたり可及的に多数の永久磁石を取り付けることができ、使用者の身体各部へ作用する磁力線の密度が濃い永久磁石リングを提供できるようにするにある。

【0008】

とりわけ、永久磁石リングを構成する永久磁石の個数を使用者が自由に設定することができることにより、永久磁石リングの大きさを任意に設定することを可能にして、ネックレス又はブレスレット等として使用する際に、使用者の身体各部への装着性が良好である永久磁石リングを提供するにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本考案の永久磁石リングは、上記目的を達成する為に本考案は次の技術的手段を有する。即ち実施例に対応する添付図面中の符号を用いてこれを説明すると、本考案は、複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング 1 に於いて、上記複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを、横断面が円形の円柱形状に形成するとともに、上記円柱形状に形成した永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成して成ることを特徴としている。

また、本考案の他の特徴とするところは、複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング 1 に於いて、上記複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを、横断面が楕円形の楕円柱形状に形成するとともに、上記楕円柱形状に形成した永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成して成ることを特徴としている。

また、本考案のその他の特徴とするところは、複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング 1 に於いて、上記複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを球状に形成するとともに、上記球状に形成した永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成して成ることを特徴としている。

また、本考案のその他の特徴とするところは、複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング 1 に於いて、上記複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを、横断面が五角形以上の多角形の円柱形状に形成するとともに、上記五角形以上の多角形の柱形状に形成した永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成して成ることを特徴としている。

また、本考案のその他の特徴とするところは、上記永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の表面に下地メッキとしての銅又はニッケルメッキを施した後、表面に金又は白金系ロジウムメッキを施したことを特徴としている。

【0010】

【作用】

本考案は上記構成より成るもので、本考案の永久磁石リング 1 は任意の個数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を相互に磁気吸着させて永久磁石リング 1 を構成するようにしたので、使用者の要求に応じた任意の大きさの永久磁石リング 1 を構成することが可能となる。そして、使用者が手首、足首、首回り、腕回り、足回りに装着すると、上記永久磁石リング 1 を構成する永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…間から漏れる磁力線が身体の外側部位に配列される。従って、多数の永久磁石の異極間に磁力線が通り、その磁力線が身体各部に作用し血行を促進等する。

【0011】

また、本考案の他の特徴によれば、各永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を希土類にて構成したので、各々の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…からは強力な磁力線が得られて身体各部の血行を促進する作用が大きい。また、希土類の表面をメッキしたので、見た目に綺麗な永久磁石リング 1 を構成することが可能となる。

【0012】**【考案の実施の形態】**

次に、添付図面に従い考案の好ましい実施の形態を説明する。

図 1 は、永久磁石リング 1 は使用者の手首 2 に取着して使用している状態を示している。

【0013】

上記永久磁石リング 1 は、図 2 に示すような永久磁石 3 を、図 3 に示すように、多数個 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…磁気吸着により相互に接続して構成されているものである。本実施の形態においては、上記永久磁石 3 の横断面形状を円柱状に形成した例を示している。そして、上記円柱状に形成した永久磁石 3 の多数、即ち、永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を磁気吸着により接続することにより、所望の大きさに構成することが簡単である。そして、所望の大きさにて構成することにより、3 a, 3 b, 3 c, 3 d…手首 2 の他に、腕回り、足首、足回り、首回り等のような、適用する部位に応じた種々の大きさのものを自由

に構成することができる。

【0014】

図4に、各永久磁石3a, 3b, 3c, 3d…が磁気吸着により接続されている様子を示す。本実施の形態の永久磁石リング1は、各永久磁石3a, 3b, 3c, 3d…において、N極→S極→N極→S極→N極→S極→…のように、異なる磁極で相互に接続している。従って、各永久磁石3a, 3b, 3c, 3d…は、強力な磁気吸着力で相互に接続することができ、使用中に不測に離脱する問題が無くすることができる。

【0015】

上記永久磁石3は、例えば、鉄—ボロン系統の希土類によって形成されている磁石である。近年、このような希土類元素を主成分の一つとする永久磁石3は、強力な磁力線を得ることが可能であることにより、多くの分野で注目されている。上記永久磁石3を製造するには、成形及び焼結を行った後に、機械加工や研削加工を行って所定の寸法に仕上げ、さらにメッキ等を行って製造している。

【0016】

上記メッキを行う場合には、図7の断面図に示すように、永久磁石3を構成する希土類31の表面に銅又はニッケルメッキ層32を例えば30ミクロン程度形成し、上記銅又はニッケルメッキ層32の表面に金又は白金系ロジウムメッキ層33を形成する。上記金メッキ層33を形成する場合、例えば、金—コバルト15パーセントにて2ミクロン程度の層を形成する。尚、上記金メッキの他に、例えばプラチナメッキでもよい。

【0017】

本実施の形態において、上記永久磁石3a, 3b, 3c, 3d…の各々は、この図示の例では円筒形のものとして示してあると共に、皆同じ形状に定められている。しかしながら、この他に5角形以上の角筒形、球に近い形、飾りとなるような形状、種々様々な形状を用途に応じて形成してもよいし、各々の形状を互いに変えてもよい。

【0018】

そして、この図示の例では各永久磁石3a, 3b, 3c, 3d…は皆同じ大き

さ、且つ各磁極の強さも同じに定めてあるが、各永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の磁極の強さを互いに異ならしめてもよい。

【0019】

例えば、図5に示すように、図5(a)に示した永久磁石3は、図2で示した永久磁石3と同じであるが、上記永久磁石3とは直径が異なり、上記永久磁石3の直径よりも細い径の永久磁石5を構成するようにしてもよい。例えば、上記永久磁石3又5の直径は3φ、4φ、5φ等とし、長さを1cm程度とするのが好ましい。

【0020】

上記細径の永久磁石5により、例えば、指輪やネックレス等を構成するようにしてもよく、又図6に示すように、永久磁石5→永久磁石3→永久磁石5→永久磁石3→永久磁石5…のように交互に磁気吸着させてブレスレット60を形成すれば、興趣に富んだブレスレットを構成することができる。

【0021】

又、金メッキした永久磁石3又は永久磁石5と、プラチナメッキした永久磁石3又は永久磁石5とを交互に磁気吸着してブレスレットを構成するようにすれば、ファッション性に富んだブレスレットを構成することができる。

【0022】

つまり、本実施の形態の永久磁石リング1を身体の手首、腕回り、足首、足回り、首回り等の装着部位に、ネックレス又はブレスレット等として装着した場合、各永久磁石3 a, 3 b, 3 c, 3 d…間における異極N, S間に強力な磁力線が通るので、身体の装着部位に上記強力な磁力線が作用し、その部位及び周辺の血行促進等が図られるものである。

【0023】

【考案の効果】

以上説明してきたように、本考案によれば、以上詳述した如く本願の請求項1記載の考案によれば、複数の永久磁石3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング1に於いて、上記複数の永久磁石3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを、横断面が円形の円柱形状に形成するとともに、上記円柱形状に形成し

た永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成したので、使用者が望む大きさの永久磁石リング 1 を、使用者自身により容易に構成することができる。又、可及的に多数の永久磁石を取り付けることができ、身体各部へ作用する磁力線の密度が濃い永久磁石リング 1 を提供できる。

【0024】

又本考案の他の特徴によれば、上記利点に加えて、上記永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の表面に金メッキを施したので、綺麗であると共に、使用中に変質したり、使用者に対する悪影響が少ない永久磁石リング 1 を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本考案の実施の形態を示し、実施の形態の永久磁石リングを手首に装着している様子を示す図である。

【図 2】

実施の形態の永久磁石リングを構成する永久磁石の一例を示す斜視図である。

【図 3】

実施の形態の永久磁石リングの平面形状を示す図である。

【図 4】

複数の永久磁石が磁気吸着により接続されている様子を示す図である。

【図 5】

大きさが異なる永久磁石を形成した様子を説明する斜視図である。

【図 6】

大きさが異なる永久磁石を磁気吸着してブレスレットを構成した例を示す図である。

【図 7】

希土類の表面に銅又はニッケルメッキ層を形成し、その上に金又は白金系ロジウムメッキ層を形成した例を示す断面図である。

【符号の説明】

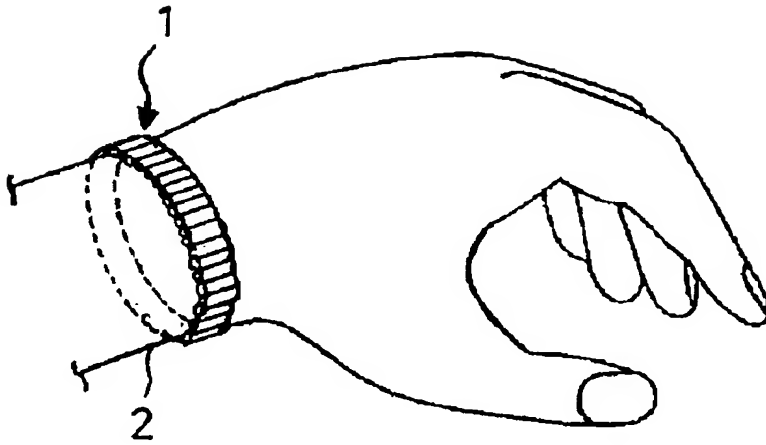
1 永久磁石リング

- 2 手首
- 3 永久磁石
- 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…個々の永久磁石
- 5 他の例の永久磁石
- 3 1 希土類
- 3 2 ニッケル又は銅メッキ層
- 3 3 金又は白金系ロジウムメッキ層
- 6 0 ブレスレット

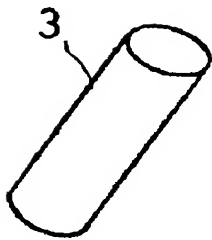
【書類名】

図面

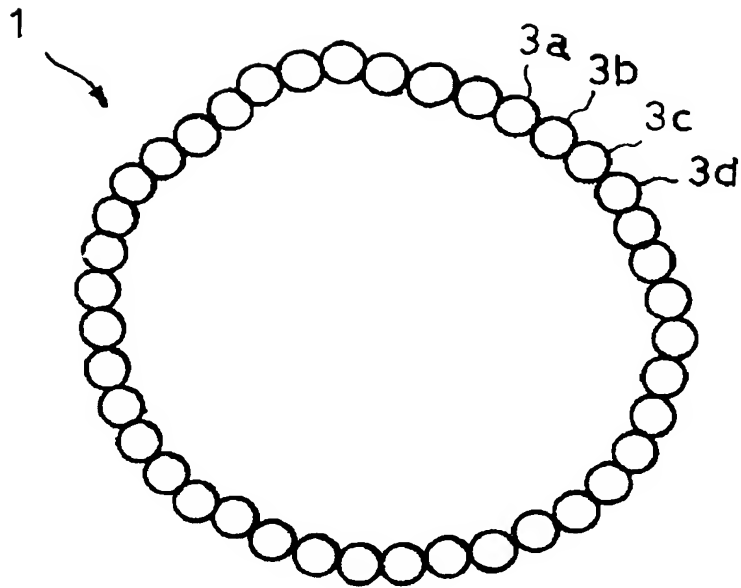
【図1】



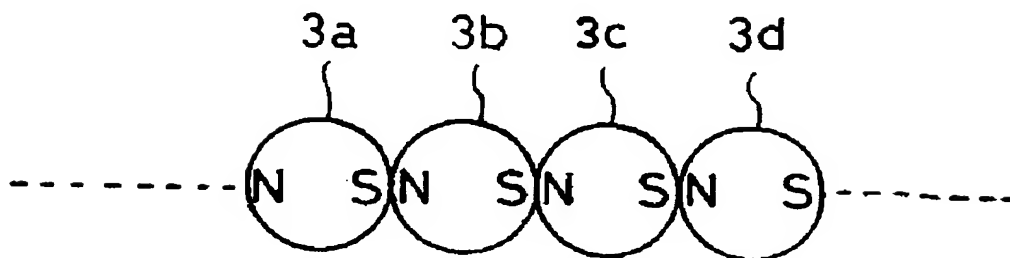
【図2】



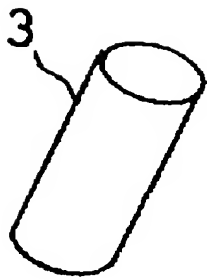
【図3】



【図4】



【図5】

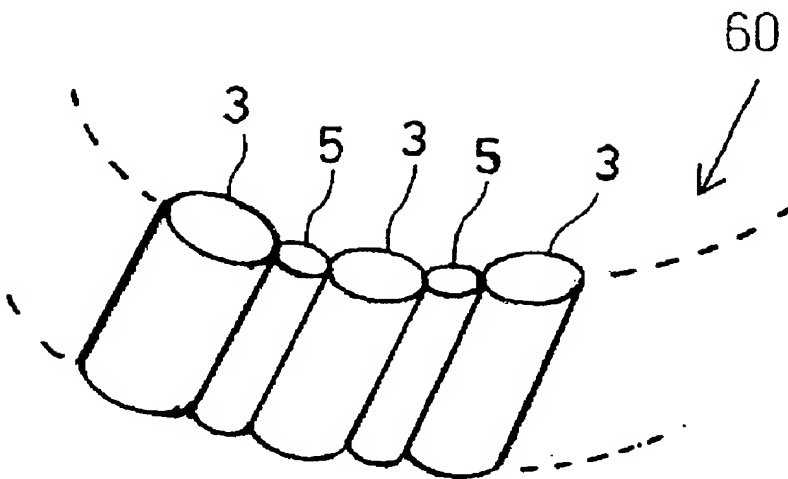


(a)

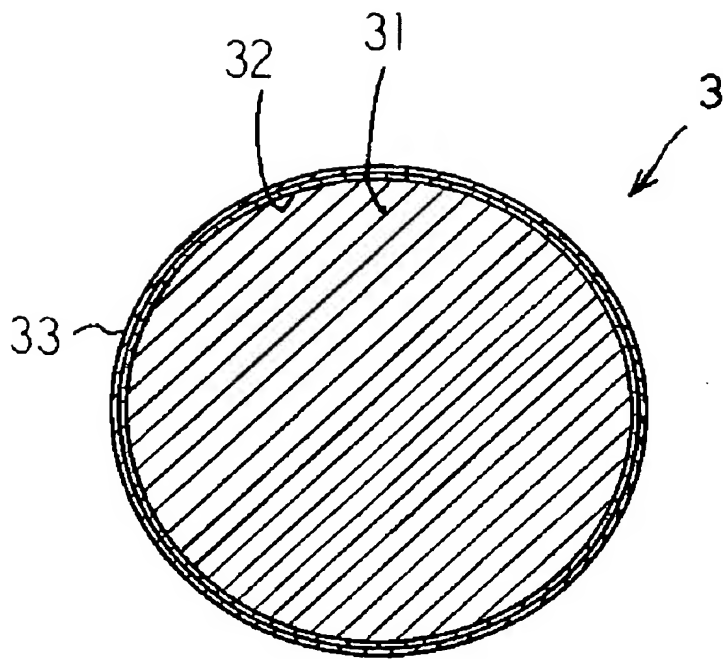


(b)

【図6】



【図7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 任意の大きさの永久磁石リングを使用者自身により簡単に構成可能な永久磁石リングを提供すると共に、リング一周あたり可及的に多数の永久磁石を取り付けることができ、身体各部へ作用する磁力線の密度が濃い永久磁石リングを提供できるようにする。

【解決手段】 複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…を配設して成る永久磁石リング 1 に於いて、上記複数の永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…のそれぞれを、横断面が円形の円柱形状に形成するとともに、上記円柱形状に形成した永久磁石 3 a, 3 b, 3 c, 3 d…の所定数を相互に磁気吸着させて所定の大きさのリング状に形成したので、使用者が望む大きさの永久磁石リング 1 を使用者自信により容易に構成することができると共に、可及的に多数の永久磁石を取り付けることができ、身体各部へ作用する磁力線の密度が濃い永久磁石リング 1 を提供できるようにする。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

実用新案登録出願の番号	実願 2002-008153
受付番号	50201950010
書類名	実用新案登録願
担当官	第九担当上席 0098
作成日	平成15年 1月22日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成14年12月24日
-------	-------------

次頁無

実願 2 0 0 2 - 0 0 8 1 5 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [3 9 0 0 2 1 4 8 5]

- 1 . 変更年月日 1 9 9 0 年 1 1 月 1 3 日
[変更理由] 新規登録
住 所 神奈川県相模原市橋本台 3 丁目 1 2 番 1 8 号
氏 名 有限会社相模化学金属
- 2 . 変更年月日 1 9 9 4 年 1 0 月 4 日
[変更理由] 名称変更
住 所 神奈川県相模原市橋本台 3 丁目 1 2 番 1 8 号
氏 名 株式会社相模化学金属